

基調講演-2

試練が人を磨く 桑田真澄氏

「試練が人を磨く」と題して、元プロ野球選手で野球解説者の桑田真澄氏による基調講演が開催されました。







桑田さんは PL 学園時代 5 大会連続甲子園に出場し、優勝 2 回、準優勝 2 回。甲子園通算 20 勝、甲子園通算本塁打数も清原和博氏に次ぐ歴代 2 位の 6 本を記録され、ドラフト 1 位で読売巨人軍に入団、メジャーリーグのピッツバーグ・パイレーツに入団という輝かしい野球人生を歩んでこられました。

そんな桑田さんも、今までの人生で2回の挫折を経験されたそうです。1度目は小学校1年生の時。勉強が出来ずに「アホ」と言われ勉強をあきらめて野球一筋に頑張っていたら、小学校3年生の時に野球チームの先輩にいじめられ、一度は野球をやめようと思われたそうです。そこでお母様から「人生の目標をたててごらん」と提案され「PL学園→早稲田大学→プロ野球選手」という目標を立て、自分なりに方法を模索して実践されたそうです。すると勉強にもスイッチが入り、勉強を通して「努力のすばらしさ」を学ばれたことから野球と勉強を両立する為に「短時間集中型」という手法を習得され、見事に挫折を克服しPL学園に合格を果たされました。

2回目の挫折は、PL学園であの清原和博氏と出会ったことです。 彼の野球の才能に「とてもかなわない」と絶望しそうになりました が、またここでお母様から「絶対にあきらめてはだめ。これから先のことは誰にもわからない。」と励まされ、表と裏の二つの面から努力を始められました。表の努力は野球に関する努力、裏の努力は挨拶や人の為に何かをする努力。24 時間のうちのたった5分、毎日コツコツと続けられたそうです。まさに、「一日一善」こうした日々の努力の中で桑田さんは「徳」を積んでこられたのでしょう。桑田さんはご自身の持っている「実力」に加えて「運、縁、ツキ、気づき」で結果を残してきたと言われました。「表と裏の両立」を心がけ「結果とプロセスの両立」を考えて、23年もの間プロ野球選手として戦ってこられたのです。

桑田さんの2回の挫折の際には、常にお母様の良き理解と温かいアドバイスがありました。そしてご自身も必ず「運が良かった」と前向きに解釈し、そこで「気づき」を得られています。その「運も縁もツキも気づきも」全ては自分自身の日々の行いや気持ちの持ち方、心のありようが引き寄せてくれる事を再確認でき、今を生きる子ども達に感じて欲しい事が沢山詰まった、素晴らしいご講演でした。

講演中にはクイズが出され、正解者には色紙が贈られました。しかも講演の終盤には「本物に触れて欲しい」という桑田さんの思いから、現役時代のグローブやユニフォームに直接触れる幸運を得た会員さんもいらっしゃるなど、桑田さんの誠実で前向きなお人柄に魅了されて、あっという間の2時間でした。



愛知教育大学附属名古屋中学校 育友会会長 柴田知里 取材